



“明治の時間”が流る、クラシックなロビー。正対照なデザインと随所に見られる細やかな装飾が、重厚感を醸し出している。喫茶室としても利用可能。

(右) 総料理長の木村謙二氏。日本人の舌に合った、ライトな味を意識している。(中・上) レストランのメインダイニング。別料金で個室も利用可。(中・下) テーブルセッティング。(左) ランチは2,500円から、ディナーは7,000円から (ともに税・サ別)。



Mitsui Minato Club

# 三井港倶楽部



(右) 110年前と同じ外観。丁寧な補修と維持により、往時の姿をそのまま残している。(左・上) 会議室に並ぶ、人面が彫刻で施された椅子。(左・下) ウエディング時、2階は新郎新婦控え室に。窓からは美しい庭園が一望できる。



## 明治と近代化の栄華を体現 歴史が宿る九州の迎賓館

日本最大の炭鉱・三井三池炭鉱。江戸から昭和に掛けてエネルギー産業を支えたその歴史は、日本の近代化とも重なる。1997年、惜しくも閉山したが、遺構の一部は「明治の近代化産業遺産」として世界遺産にも登録されている。

「三井港倶楽部」は、世界遺産・三池港のほど近くに建つ。三井財閥の社交場として、三池港と同じ1908(明治41)年に建築された白亜の洋館は、石炭需要に沸いた三池と明治の栄華をいまに伝えている。

往時、伊藤博文や井上馨のほか、昭和天皇をはじめとした皇族、文人墨客、高級船舶の船員などを迎え入れた。華やかな来歴を賞して、いつしか九州の迎賓館と呼ばれるように。

そんな迎賓館が昨年4月にリニューアル。時代考証を踏まえた改修を経て、往時をしのばせる

優美な姿を取り戻した。ステンドグラスのドアを開けて足を踏み入れると、木の香りとともに「明治の時間」に包み込まれる。重厚な装飾のロビー、きらびやかなボールルーム、ガラス製のシャンデリア……。110年の歴史が醸し出す格調

(右) 昭和天皇が滞在された客室。現在は展示室で、使用された往時の調度品が残る。庭園には皇族が植樹した木々も。(左) 元勳・伊藤博文が残した書が飾られている。



高い雰囲気味わうと、知らずと背筋が伸びる。「本物だけが出せる空気を味わって欲しい」と、尾形雅彦支配人は胸を張る。

レセプションパーティや企業会合など、迎賓館としての利用のほか、現在はレストランやウエディング会場としても営業。

特に料理は、フレンチの鉄人・坂井宏行氏が監修した逸品が楽しめる。天草の旬の魚介類、地場の銘柄牛や九州各地の野菜を使用したメニューは、地元食通からの評価も高い。

現代建築では味わえない、格調と非日常を体感できる三井港倶楽部。生まれ変わった九州の迎賓館には、明治の栄華と1世紀を超える歴史がいまも息付いている。

**三井港倶楽部**

電話 0944 (51) 3710

住所 福岡県大牟田市西港町2-6

営業 10:00～21:00 (レストランは11:30～14:00、17:30～20:00 (ともにL.O.)) 火曜休

交通 各線大牟田駅より車約8分